

耳公民館だより



第66号 令和7年2月



(新雪の田んぼ：興道寺)

真っ白な新雪におおわれた景色。田んぼにも農道にも、車のわだちや動物の足跡が全くありません。絵や字を描いてみたくなる白い画用紙のようにも見えますが、立春を過ぎての寒波がもたらした積雪。わずかな時間しかこの姿でいられないなら、そっとそのままにしておきたいとも…。まもなく訪れる春、雪が消えた田や畑に新たな空気が送り込まれ、出番を待っていた草花が背伸びを始めます。やっぱり自然が描き出す色合いが美しいですね。

耳地区(新庄)の素材を生かす講座

竹でつくる器 2/1(土)



いろんなデザインがあるもんですね～



立ち寄り型講座「ふらっと」ニュース

カプセルだるま (応用)

利用者の方から、「和紙を使うとおもしろいかも」とご意見をいただき、ために1つやってみました。
皆さんもぜひお立ち寄りください。



中央小学校児童 版画作品展 40点を展示中!

なかなかの力作ぞろいです。お気軽にお越しください。



「弥美神社の大しめ縄ができるまで」写真展 開催中



館長のつぶやき

白と黒

冒頭に真つ白な田んぼの写真、竹の器の下塗りは白の塗料、作品展の版画は白と黒の芸術（カラー版画もあります）ということので今月号は白が目立つ構成になりました。

もうすぐ卒業入学のシーズン、式場の紅白幕の赤と白が思い浮かびます。これは紅白に「人生の晴れの舞台で使われるめでたい色」という意味合いがあって、赤が赤ん坊、白が老いや別れにたとえられるからと言われています。もう一つ「対抗する二つの色」という説がありますが、こちらは源平合戦で赤と白に分かれて戦ったという言い伝えです。現代では紅白歌合戦がありますが、最近注目度が下がり気味というとお叱りを受けるでしょうか。

黒と白の縦じま模様もおなじみです。黒白の幕が「鯨幕」とも呼ばれるのは黒が鯨の皮、白が脂肪を表すとされていることによります。葬儀のイメージがありますが、冠婚葬祭のすべてで使えるそうです。

さて、版画の白と黒の話です。木版画の場合は彫ると白になり、彫らずに残すと黒になるわけです。同じ下絵でも逆にすると印象が全く変わります。たとえば鳥を黒で表すか白にするかです。さらに、線をうまく使い分けると立体感や動きを表現できるすぐれ技もあります。

公民館講座ではこれまでいろいろと「モノ作り」を企画してきましたが、参加者の皆さんのアイデアが時折こちらの想定を超えてびっくりします。私も講師も「目を白黒させる」といったところです。